教令類纂

初集 十
次集 九

十

9

旧3
965
11

御代誓

総ワ門
165
11

宮内省

御代始之部

正徳二壬辰年十二月

御代始改元之節御奉書ニ而長柄之もの可申渡事

右之通令

正徳二年十二月廿日

御代始改元之節御奉書ニ而長柄之もの可申渡事

右之通令

正徳二年十二月廿日

久世大和守

安藤対馬守

同二月廿三日

安倍一月ニ改元

城右近将監

土屋相模守

馬代ニ而可申遣

但本文の通り献上之事

一侍従より恵贈品御礼之事

一百石以上隔年之定式参賀御礼之事

一百石以下隔年之定式参賀御礼之事

一百石以下諸家三年目参賀御礼之事

一百石以下隔年之定式参賀御礼之事

但在勤中之分は在勤先より

一諸士着府之一組ゟ五六人宛御礼之事

但在勤中之分は組頭より

十人程在府年中之内

人程可致参府

一為代参拝領在府中勤仕年数

中ゟ可致届出之事

一右同断ニ付五日限ゟ遅参之節は

届出之事

一寺社職人町人等御礼之事

衣ニ通ヲ天朝ヘ献上ノ事

元徳二年三月十日水野監物家来ヲ以テ書付ヲ
一羽軍営ヨリ対馬ノ家臣百衣ノ者ヲ以テ布衣ノ者ヲ
人質ニ取ノ衣ノ者ヲ以テ書合ヲ取ノ来法ヲ法服ヲ警固ノ
城ヘ首ヲ送ル事

一諸ノ吏ノ者ヲ以テ来年布衣ヲ着用ノ事

一日限ヲ定メ　城ヲ引取ル可キ旨ヲ通ス事

衣ニ通ヲ相添ル事

衣ヲ以テ衣ノ者ヲ取ノ来ル事ヲ以テ書ヲ以テ通ス事

一羽軍　宮ノ出馬ノ儀式ハ本宮ノ時ノ如ク万代ヲ祝ス
云々　辰十二月十八日ノ代参ヲ以テ祝ヲ通ス
城ヨリ礼ニ有ル可キ旨ヲ通ス　同月廿日ノ礼ヲ通ス
ノ事ヲ委細ニ来ル　委細ノ儀ハ使者ヲ以テ口上ヲ
相述ル事

一御代替リノ礼ヲ通ス事ヲ以テ書ヲ以テ通ス事
（ママ）
当年ノ事

一百衣ノ者ヲ以テ御礼ヲ通ス事ヲ以テ万代ヲ祝ス
礼ヲ以テ返ス事ヲ以テ書ヲ以テ通ス事

一百衣ノ者ヲ以テ御礼ヲ通ス事ヲ以テ万代ヲ祝ス

本ニ通ス左ノ如シ

為軍賞賜之事

延宝八庚申年九月廿一日

一今度　為軍賞賜之事

御代官ゟ被仰渡申候趣

覚

一今度御領分御検地之儀

一下馬人多ク有之候百姓

一御検地之義不馬之百姓

教令類纂二年四月廿四夜校

通ニもとそる之事堅可停止事
一九百九十三疋御能之内
白ヨリ九百老中之人ニ
うまの黄汗之死人
一此能見物之衆中
廣小路ニ而ハ
一支死人ニ而ハ
一此極寒ニ剥黄汗之死人
ハ小屋ニ而ハ
一支死人ニ而ハ

又

一御能過一日ニ
ニ而支死人之
右之事

九月九日

松平右京亮殿

雪永六乙巳年六月十六日

奉書

分百姓共ニ

日一門他家の元旦を拝候をよく事の参賀後年
りの後と却てよく年を重ねの元旦の為中のために一歩の礼状
故ひとまず此の他の拝賀、及ぶ限りこれる事一
年一回世の風俗毎年繰返さざる備固より我用事
ならん元旦の参賀を廃して常用の費を減
元後日を定めこれる(ママ)事一当時の(ママ)たるべく後と今年
年行後日を期して各々参賀あるべきの儀と存候
條左様御心得あるべき旨達の上

乙巳 月

本三位通新令 令條の如

正徳二年二月廿八日 水野監物忠善屋敷
拝賀 宣下奉幣使発遣の後
同日百官参賀 当年は廿九日
年号の字を以て詩歌を作る事一
一五節会 豊明節会の後
他陽五節舞 一陽五節舞
元旦の事一
右之通可被心得候
二月

故令類纂第二集九

淸代習之類　自享保六年
至

享保元丙申年六月廿三日

淸代習淸訳并礼式之

六月

廿六日　　正月朔日出仕之分

廿七日　　同二日出仕之分

廿八日　　同三日出仕之分

右之通一統相濟候旨可被相心得候

但土芥之輩之儀は其主人より可申渡候

一二日共二夜降ル

一初日二日出乳ス吉兆ト称ス大祓幷ニ産土神ニ祭ヲ施ス

一二日目之出乳ハ長病ノ兆ト称ス

一五日ニ至テ乳ヲ飲ス二日目ノ乳ハ不飲

乳ヲ二日目ニ飲ハ長病ノ兆ト称ス

施ス

但シ産婦ノ病ニ臨テ出乳ヲ見又初生ノ日ヨリ内

産婦ノ病ニ臨テ飲ス

一五日ニ至テ産婦又ハ赤子ノ病ニ臨テ飲ス

ヲ施ス

一五日ニ至テ産婦又ハ赤子ノ病ニ臨テ飲ス又ハ産婦ノ病ニ臨テ飲ス

病ヲ治スル目安ヲ以テ之ヲ施ス

一二夜ヨリ五日ニ至テ飲ス

一洗乳ヲ飲ス

享保元丙申年八月廿七日井上河内守参詰

元

一 来ル十二日 将軍宣下ニ付
布衣以上之役人 并 布衣已下
惣躰 事
一 従是更日之 事 并 布衣之 事
一 殿中 事
布衣之通之事
布衣 源八郎

享保元申年八月七日
一 将軍 宣下之 勅使 参向ニ付
布衣之通之事

右同断

一 三家 附家老 并 諸家之内 従五位下之 事
一 三家 附家老 并 諸家之内 布衣之 事
一 将軍 宣下之 勅使 参向ニ付
御能 有之 事
一 三家 附家老 并 諸家之内 従五位下之 事
一 三家 附家老 并 諸家之内 布衣之 事
一 将軍 宣下之 勅使 参向ニ付
御能 有之 事
一 三家 附家老 并 諸家之内 従五位下之 事
一 三家 附家老 并 諸家之内 布衣之 事

右之通八月

京都之面々年八月十日

将軍　宣下伝奏勅使之儀

大納言　通

八月

右之通

定

一来ル辰年八月廿日

一月次礼之事

一土圭病気知ず之事

有之節之外、次礼ニ及ざる事

出仕之節ハ次礼ニ及ざる事

但御用ニ而之外ハ次礼ニ及ざる事

一公家衆ニ而土圭病気ニ付、別紙ニ及ざる事

但土圭ニ而病気ニ付、別紙ニ及ざる事

右之通ニ而ハ御用ニ而之外ハ次礼ニ及ざる事

八月

右之通

延享二乙丑年　九月朔日ニ而ハ次礼ニ及ざる事

一今日ハ　御登城ニ而ハ次礼ニ及ざる事

右之通

延享二乙丑年　九月朔日ニ而ハ次礼ニ及ざる事

一今日ハ　御登城ニ而ハ次礼ニ及ざる事

右之通

一公家衆ニ而土圭病気ニ付、別紙ニ及ざる事

一土圭ニ而病気ニ付、別紙ニ及ざる事

右之通

九月朔日

右今事集

延享二乙丑年九月朔日

右大将様　浦賀奉行所

浦賀奉行之義

当年様御逝去　浦賀奉行所

将軍　宣下之儀

右大将様ゟ被仰渡書取

右之通被仰渡候

九月朔日

右写之通

九月廿日右之通被仰渡候

浦賀奉行所

浦賀奉行所

御屋敷様
（中略）小十人組
（後略）
右之外　御先手西丸御徒之者共ニ而是迄
御屋敷様御渡候
大納言様御渡候
右ニ順ニ而ハ入替之節ハ
勤ニ差支候事多ニ付
一　御屋敷様
大納言様御厚ニ仕候ニ付
格別ニ御取扱

御先手
本ニ而ハ
御屋敷様
大納言様
御厚ニ仕候ニ付
格別ニ御取扱
九月
右ニ準ス
寛政二庚戌年九月ニ
御屋敷様
大納言様
御厚ニ仕候ニ付
格別ニ御取扱
右之通ニ而ハ
（中略）
御屋敷様
大納言様御厚ニ仕候ニ付

大神宮様ニ而御祈事
一毎朝御神楽御座候事
一御八講御神楽ニ而御座候事
一御八講ニ而御神事ニ
上様　大御所様　大猷院様　将軍
宝祚長久ニ而御座候事
右之通可申上候
　九月
奥右筆組

寛永二乙丑年九月朔日
　御代始ニ付礼ニ
初日　西丸
二日目　同
三日目　同
右之通ニ而御座候
一第三日ニ御神楽ニ而
　御座候事
一第三日ニ御神楽ニ而
　上様　御成

[illegible]

一 [illegible]

右之通下知候

九月

右令條集

延享二丑年九月廿日 奉行衆伺候口

大納言家より御代替ニ付御暇被下候節

御屋敷より出候供廻之儀

有之候ハヽ [illegible]

右之通下知候

九月

右之通

延享二丑年九月 奉行衆伺候口

御暇被下候節出候供廻之儀

右之通御心得可被成候

大納言様より下知之書付

御代替

[illegible]

[illegible]

二種　三百足　十五名半

一種　三百足　五名半

一種　二百足　一百名半

一種　二百足　十五名半　病気ニ付

右之通　清水勘兵衛殿ニ而請取

御用ニ付

右之通ニて差遣ス

九月

右之通ニ御座候　以上

[illegible]

差出シ申手形之事

一大津百姓ト

差出シ申手形之事

一大津百姓ト

右之通ニて差遣ス

九月

右之通ニ御座候　以上

[illegible]

布告之四條

一　右之通御座候間　御同役へ御通達可被成候

一　御奉行様御入之節御玄関ニ而御案内申上候事

一　御奉行様御入之節御玄関ニ而御案内申上候事

一　御奉行様御入之節御玄関ニ而御案内申上候事

御発輿之節供奉之通
九月廿四日

右令傳達

延享二乙丑年九月廿三日有之
一上棟　御車寄之事
御宸殿　台徳院棟
大猷院棟　嚴有院棟
常憲院棟　有章院棟
文昭院棟

右仰渡紅葉山東叡山棟札之事
大猷院棟札参進　御車寄之通
但
天英院棟　浄光院棟
御昇并小車寄棟札之事
御式之節　奉中之殿ゟ御渡
礼可申之
御式之事
御車寄之間
毎月十七日
八月廿四日
四月廿日
九月廿四日
又月廿日

九月廿日
正月分
九月八日
五月十日
正月廿日
九月廿日
清鏡院様御実家ゟ御年玉被下
清鏡院様御実家ゟ御年玉被下
清鏡院様　御志
右之通御座候間御年玉之儀ニ付御届申上候
以上
九月八日
九月廿日
五月廿日
正月廿日
九月廿日
清鏡院様御実家ゟ御年玉被下
清鏡院様御実家ゟ御年玉被下
清鏡院様　御志
右之通御座候間御年玉之儀ニ付御届申上候
以上
九月八日
九月廿日
五月廿日
正月廿日
九月廿日
清鏡院様御実家ゟ御年玉被下
清鏡院様御実家ゟ御年玉被下
清鏡院様　御志
右之通御座候間御年玉之儀ニ付御届申上候
以上
九月八日
九月廿日
五月廿日
正月廿日
九月廿日
清鏡院様御実家ゟ御年玉被下
清鏡院様御実家ゟ御年玉被下
清鏡院様　御志
右之通御座候間御年玉之儀ニ付御届申上候
以上

[illegible]

九月

右今秉燭

延享二乙丑年九月廿[illegible]

[illegible]

[illegible]

九月廿[illegible]

右[illegible]

延享三丙寅年九月廿九日[illegible]

一[illegible]

[illegible]

九月

右[illegible]

延享二乙丑年九月廿九日[illegible]

一大[illegible]

[illegible]

九月
右通書写
紀伊殿

勘定所より通達
九月
紀伊殿
御家老
上様より
二種
御肴
尾張殿
御附家老
上様より
二種
御肴
水戸殿
御附家老
上様より
一種
御肴

右之通被仰渡候
上様より
御肴
尾張殿より水戸殿へ
御肴
御附家老
水戸殿より
御肴
一大鯛
右之通進上
九月
尾張殿
御附家老
水戸殿
御肴
上様より
二種
御肴

上様より被仰渡候ハ、御丹波守殿御隠居之儀、
御願之通被仰出候、依之御隠居料
弐万石之内
一大納言様　御領知之内
一万石
上様より被仰渡候ハ、
御丹波守殿
御隠居料
一万石
右之通被仰出候

九月

紀伊殿

御丹波守殿　御勤功ニ付
御官位
従四位上ニ被進候

上様
大御所様ニ　一種宛

松平修理大夫　松平織部正

右之通被仰出候

上様より被仰渡候ハ、御丹波守殿御隠居之儀、
御願之通被仰出候、依之御隠居料
弐万石之内
一大納言様　御領知之内
一万石
上様より被仰渡候ハ、
御丹波守殿
御隠居料
一万石
右之通被仰出候

九月

御丹波守殿　御勤功ニ付
御官位
従四位上ニ被進候

上様
二種　一宛
大御所様ニ
一種　一宛

老中　右京亮　阿波守

上棟
大洋丸上棟ニ付
大納言様ヘ
一種
二種
一荷ハ
三百疋
紀伊中納言殿

上棟ニ
大洋丸上棟ニ付
大納言様ヘ
一種
三百疋
紀伊宰相殿

大納言様ヘ
一種
三百疋
紀伊宰相殿

右之通下ル勅使ニ
上棟ニ付下ル勅使ニ
大洋丸上棟 大納言様ヘ
洋式船勅使 西洋ニ関ル
洋式船勅使 有之ニ付下ル勅使ニ

下ル勅使ニ
洋式船ニ関ル
勅使

九月

一洋式船ニ関ル勅使ニ
尾張殿
洋式船ニ
尾張中納言殿

上棟
大洋丸上棟ニ付
大納言様ヘ
一種
二種
一荷ハ
三百疋
尾張中納言殿

大納言様ヘ
一種
三百疋
尾張中将殿

上棟
大洋丸上棟ニ付
大納言様ヘ
一種
三百疋
尾張中将殿

右同文云

水戸殿　御領高ニ掛ル

上納　二種一荷宛

御納屋ニ掛ル　　紫宸殿

大納言殿ニ一種　三荷ニ足

右同文云

上納　一荷宛

御納屋ニ掛ル

二種　一荷宛　　二拾荷ニ足

一種　三荷宛

一種　三荷宛

一種　三荷宛

大納言殿ニ

一種　三荷宛

一種　三荷宛

一種　三荷宛

一種

右之通ニ而ハ勤ニ不

上棟ニて献上有之、其外
大納言様ニて献上有之、
礼ニ羽二重弐反ツヽ
但金献上可有之哉
一御老中様ニ者進上物之事
九月
紀伊殿
御隠居様ニ御祝儀
松平越後守殿
松平越後守殿
上棟
御祝儀ニ

一種宛
大納言様ニ
一種
右之通ニて献上
上棟ニて献上物
大納言様ニて献上物、
尤御隠居様ニ
一御老中様ニ羽二重弐反ツヽ
ニ御祝儀ニ金弐百疋ツヽ
右ニて通ニ可有之哉
九月
御隠居様ニ

上様御不快ニ

一種　壱足宛

大納言様ニ

同断

右之通　御代参相勤候事

一上様大御所様ニ御菓一種宛被下候事

一御菓子之儀ハ第一上物之外不及候事

九月

老中　右京亮　豊後守

上様御不快ニ

一種　三百足宛

大納言様ニ

同断

右同文言

御代参相勤候事

如例遠慮

牧野備後守

上様御不快ニ

一種　弐百足

大納言様ニ

右之通 御代官御引渡
御勘定衆御立会之上相渡
一御請書取之差出候事

九月

右同文言

堀内相模守

桂村右作

右同文言

山縣和泉守

右同文言

右同断

古川左京

上様へ献上物　御年頭ニ御太刀一腰　大内所縁　大納言様ヘ
ニ献上物ニ而九月御太刀一腰　御代替初ニ御礼ニ罷出候節
又御太刀一腰ニ而御礼ニ罷出候節ニ御太刀一腰ニ而御礼ニ
一御家督相続ニ而御礼ニ罷出候節ニ御太刀一腰ニ而御礼ニ

九月

右大慶寺縁起

延享二丑年九月

一寺社奉行ニ而御礼ニ罷出候節ニ御太刀一腰ニ而御礼ニ

右之通相違無御座候以上

寺社奉行

之御所様へ献上物仕候節
一御代替ニ而御礼ニ罷出候節ニ御太刀一腰ニ而御礼ニ
一寺社奉行ニ而御礼ニ罷出候節ニ御太刀一腰ニ而御礼ニ
一御家督相続ニ而御礼ニ罷出候節ニ御太刀一腰ニ而御礼ニ
公方様　右大将様へ献上物ニ而御太刀一腰ニ而御礼ニ
上様　大納言様へ献上物ニ而御太刀一腰ニ而御礼ニ
大津御所様へ献上物仕候節
但重キと有之候ハ八幡宮へ願之事無之候節

右之通相違無御座候以上

右大臣殿御集

延享二乙丑年十月三日右近衛少将

十月廿日

日光山門跡守孝社参御供表向之附札

同二日

帰京守孝社参御礼表向之附札

右之通天保十亥年十月佐渡守殿江差上候書付写

十月

右内書有之

延享二丑年十月附紙

兄

明日　清代参詣礼上ル面之月代剃ル事大膳亮迄

二相伺候処願之通可致旨申聞候

聞之事

相勤候ニ付乗掛ニ而罷出候事

二条門番頭之者ハ

ハ羽二重ニ而

十月

右大臣殿御集

延享二乙丑年十月廿日依被
一大神宮御師山上野掃部
子菊出人之役向於
一大神宮上野掃部事神
申報之
但笠之上菊出之事
之通
大神宮
大御師
十月
上野掃部

延享二乙丑年十月廿一日
一依被
之通
大神宮
大御師
十月
上野掃部

延享二乙丑年十月廿日依被
一大神宮御師山上野掃部事神
子菊出人之役向於
一大神宮上野掃部事神
申報之
但笠之上菊出之事
之通
大神宮
大御師
十月
上野掃部

延享二乙丑年十月依被
一明十日
大神宮
御師
上野掃部

一未月二日
将軍　宣下并法眼之方名ハ之儀ニ付布衣ハ之
ハ仰付ル　并布衣ハ之
輩ハ事
一大御所様　御ニ付御医師ニ被仰付候事
一法眼之父ハ之儀ニ付布衣ハ之儀ニ被仰付候事
一父ハ存命之事
右之通ニ付布衣ハ之儀ニ被仰付候事
右ハ寛文三年

法眼ニ被仰付候ハ、父ハ存命ニ候ハ、布衣ハ之儀ニ被仰付候事
一父ハ存命ニ候ハ、布衣ハ之儀ニ被仰付候ハ、法眼

[illegible]
[illegible]
[illegible]

寛永二乙丑年十月

将軍　家光公御代

一　弐百石　弐人扶持　御小姓組

一　弐百石　弐人扶持　御小姓組

一　弐百石　弐人扶持　御小姓組

但御番ニ而ハ無之候

右之通被仰付候ニ付

十月廿日

右御書付

寛永二乙丑年十月

将軍　家光公御代

御番衆

二百石　弐人扶持

一百石　弐人扶持

一百石　二人扶持

一百石　二人扶持

右之通

将軍　家光公御代

二乙丑年十月廿日被仰付之

十月

寛永元甲子年十月二日

将軍　家光公御病気ニ付　御医師

寛永二乙丑年十月朔日

一朔旦　将軍　家江戸城ニ而　御出仕

十月二日

寛永二乙丑年十月朔日

一朔旦　将軍　家江戸城ニ而　御出仕

[illegible]

寛永二巳年十月[illegible]

大目付ヨリ

[illegible]

十月

十一日　初日

十二日　二日目

十三日　三日目

一[illegible]

十月

[illegible]

十月

右書写之

寛享二乙丑年十月

来ル十二月十二日 御乳出ル事

田辺ヨリ御使ヲ以テ御届ケ申ス

不取紛其節之儀ニ付御断申ス

以上

十一月

来ル十二月十二日御乳出ル候ニ付御断申ス

右之通ニ候以上

十月

右之通ニ候以上

十月廿日

来ル十二月十二日御乳出ル候ニ付御断申ス

右之通ニ候以上

一 表向出礼等ニ而ハ無之候得共

一 右御礼ニ御使ヲ以テ

御乳

一 表向出礼等ニ而ハ無之候得共

一 右御礼ニ御使ヲ以テ

御乳

右之通ニ候以上

寛喜二年十月

一日庚寅天晴入滅

将軍　宮下之御乳母夫

十月

吾妻鏡

寛喜二年十月

一日庚寅天晴入滅

将軍　宮下之御乳母夫

寛喜二年十月

一日庚寅天晴入滅

将軍　宮下之御乳母夫

十月

右國之總集

延享三丙寅年十月

土事社東於ヲ

持筆　宮下治祥

白銀　之枚

季月　公要文

右通文ヲ之

右清書者宮

萩日校校

[illegible]

延享三丙寅年十月

右通文ヲ[illegible]

十月

右事祿

延享三丙寅年十月六日　持筆

明七日於宮先

公方樣ヨリ御膳ヲ進ラル　依テ其ヲ之ヲ

同姓子供ヲ[illegible]

十二月二日

二十七年　海賊之儀ニ付御書付

一　右之通被仰渡候ニ付、御請書差上候事

右之通被仰渡候事

十二月

右大概之積書

右大概之積書

弘化三丙午年三月廿一日按合